

リーディングプロジェクトにおける数値目標管理

【平成30年度版】

1. 本資料の目的

本資料は平成28年3月に策定した白岡市環境基本計画【改訂版】の推進にあたり、令和2年度（平成32年度）までのリーディングプロジェクトを中心とした計画の進行状況を把握・整理したものである。

【白岡市環境基本計画「第6章 計画の推進方策」より】

進行管理については、3つのリーディングプロジェクトに位置付けた施策、及び数値目標を中心に実施していきます。

2. 進行管理の結果

(1) 数値目標に対する現状(第5章 3つのリーディングプロジェクト)

① 数値目標に向かって近づいている(昨年度よりも進んだ)項目

項目	要因※左記項目に準じて記述
◎低炭素社会構築プロジェクトにおける数値目標	
(1)緑のカーテン設置助成累計件数	配布件数は100件。広報、HPにおいて周知を図ったもの。
(2)公共施設への太陽光発電システム設置基数	生涯学習センターこもればの森への設置を行った。
(3)防犯灯のLED化率(LED防犯灯／市内防犯灯総数)	行政区長会議等を通じて更新箇所の意向を聴取している。 市内の防犯灯を141件(新規設置を含む)ほどをLED防犯灯に更新した。
◎豊かな自然の保全推進プロジェクトにおける数値目標	
(1)保存樹木の指定本数	新規で小久喜地内の樹木3本を保存樹木に指定した。
(2)市内に生息する動植物などの調査	市内全域で調査ができる体制を整えた。
(3)生活排水処理率	計画に沿い進行している。
◎市民エコ生活推進プロジェクトにおける数値目標	
(1)環境学習会参加者数	平成30年度は環境学習会を二回開催した。
(2)ペアーズ！しらおか参加者数	計画に沿い順調に参加者数は増加している。

② 昨年度から数値目標に近づいていない項目(目標が現状維持となっているものを除く)

項目	要因(※左記項目に準じて記述)
▽市民エコ生活推進プロジェクトにおける数値目標	
ごみゼロ・クリーン運動	平成28年度をピークに、2年連続で参加者が減っている。各行政区で参加を呼び掛けているが、昨今における地域住民同士の関係の希薄化が、参加者減少の要因のひとつと考えられる。

(2) リーディングプロジェクトに対する現状(総括)

◇低炭素社会構築プロジェクト
引き続き省エネルギー、再生可能エネルギーの機器等の導入に対する補助を実施する。 また、身近な場所において低炭素社会を目指す啓発活動を実施する必要がある。
◇豊かな自然の保全推進プロジェクト
市内ではまだ確認されていないが、クビアカツヤカミキリやヒアリといった外来種が県内でも発見されている。正しい知識と生態系の確保が望まれる。
◇市民エコ生活推進プロジェクト
自然に親しむ機会を設けることで、自然へ配慮したエコ生活に繋げる取組が必要である。

市民、事業者、市の連携による取組みを目指し事業を展開する。

また、身近な環境問題に触れる機会づくりが必要である。創エネ省エネ機器の設置は自然環境に配慮する意識が底辺にあると考えられるが、自然そのものに触れることで守るべき自然環境の姿を意識する機会を設ける。そのような機会を市民や市民団体、事業者と連携することで企画者はもとより参加者の自然に配慮した環境づくりの底上げが図れるものと考えられる。